

川底には
みどりの魚が
いる

鈴江俊郎

登場人物

男……中島達男

女……島之内ひろみ

……基 祐子

二場 基と中島の部屋

テーブルに椅子。二人が座っている。中島と、基。中島は新聞を読んでいる。基はその中島を見つめている。

基 ……

基、立って窓の方に向かう。

基 ねえ。

中島 ……(新聞を読んでいる)

基 ねえ。

中島 ん？(新聞から目を離さない)

基 ……

中島 (不審に思っ目上げる) ん？

基 私のこと好き？

中島 え？

基、振り向く。

中島 ……え？

基 愛してる？

中島 ……

基、座る。中島の正面に。

中島 うん。

基 愛してるの？

中島 うん。

基 じゃ愛してるって言って。

中島 ……(笑って新聞に目を落とす) ……うん。

基 ね言っ。

中島 いいじゃん。

基 よくない。

中島 いいよ。

基 いいか悪いかは私が決める。

中島 ……うん。

基はいらだつが、立って奥(台所)へ去る。

中島 弱いなあ、阪神。

間。

中島 ほんとになあ……

基の声 ええ？

中島 ……

基の声 なに？

中島 なんでもない。

基の声 なに？

中島 なんでもない。

基 入場。

基 なによ。

中島 ……阪神、弱いなあ、つて。

基 なによそれ。

基 退場。中島、新聞に目を落とし、

中島 ……だいたい打率が低い。

基の声 だめなの？また。

中島 ……なに？

基の声 阪神でしょ。

中島 だめ。全然。

基 二五戦全敗？

中島 ……（白ける）

基 入場。

中島 なんだよ二五戦全敗、つて。

基 すごく弱いんですよ？

中島 大相撲じゃないんだから。

基 相撲みたいなもんですよ。でも。

中島 ところが。

基 途中で引いたりするからでしょ。押して押して、押さないとだめなのよ。基本は押しなんだから。

中島 ……なに言ってるの。

基 似たようなもんじゃない。勝負事なんだから。

中島 そうかな。

基 勝負なんてしなけりゃいいのよ。そもそも、むきになって、がっかりするくらいだったら。

中島 ……うん。

基 窓に向かう。

基 ……がっかりするんだから。

中島 ……うん。

中島、新聞に向かう。

基 私のこと好き？

中島 え？

基 私のこと好き？

基 中島の正面に座る。

基 ねえ。どう？

中島 好きだっつて。

基 じゃ言おう。

中島 なにを。

基 「私は好きです。」

中島 ……うん。(新聞に向かう。)

基 ねえ。

中島 うん。

基 さん、はい。

中島 うん。

基 ねえ。ねえ。(新聞をめくる)

中島 ああ、うん。

基 さん、はい。

中島 「私は、好きです。」

基 なにを？

中島 え？

基 何が好きなんですか？

中島 何が？

基 誰のことを好きなんですか？あなたは。

中島 ……おれ？

基 私でしょ。

中島 ああ。

基 「基祐子さん。」

中島 はい。

基 「私は、基祐さんが好きです。」

中島 はい、そうです。

基 違う。

中島 うんうん。

基 違うっつて。

中島 なにに。

基 言うんですよ。声に出して。

中島 だからどうして。

基 「私は基祐さんのことが好きです。」

中島 ……うん。

基 さん、はい。

中島 「私は基祐さんのが好きです。」

基 どれくらい？

中島 は？

基 どれくらい好き？
中島 ……どれくらい？
基 そう。
中島 どれくらいってなに。
基 私のこと好きなんですよ。
中島 はい。
基 はいって。
中島 そうです。
基 だったらいろいろあるでしょ。
中島 いろいろって……
基 あるでしょ好きにもいろいろ。
中島 いろいろあるか？好きってことだよ。
基 あるじゃないの。いろいろ。例えば。
中島 うん。
基 カレーライス好き？
中島 うん。
基 お刺身好き？
中島 好き。
基 牛乳好き？
中島 ……うーん……うん。
基 阪神好き？
中島 好きっていうか。
基 バイク好き？
中島 うん……
基 マッチ好き？
中島 え？
基 ライターの方が好き？
中島 好き、っていう対象……
基 カセットコンロ好き？
中島 え。
基 テーブル好き？
中島 ……
基 椅子好き？
中島 ……
基 受話器好き？黒い壁好き？チャイム好き？お醤油入れ好き？洗濯ばさみ好き？角砂糖の包み紙好き？ティンシユーパーの入れ物の透明のビニール好き？ポリバケツのフタの灰色好き？食べかけのポテトチップスの袋が半分あいてるの好き？お風呂の石鹸が三分の一くらいに減ってるの好き？
中島 ……
基 私、その中でどれくらいに来る？
中島 ……その中では一番。
基 一番、なに？
中島 一番、上。
基 ……
中島 世界中で一番上。
基 ……ふふん。
中島 ……よしよし(新聞を読む)
基 身体で表現して？

中島 ええ？

基 これくらい好き？(肩幅くらいに両手を広げる)

中島 ……あのだあ。

基 これくらい？(さらに広げる)

中島 ……ああ。

基 もっど？(これくらい？)両腕の長をいっばいに広げる 違っど？(ここから…(これくらい？)動く (この端っこから…(この端っこくらい？)この部屋いっばいくらい？)このマンションの敷地せーんぶ

中島 大丈夫だよ。

基 ……

中島 大丈夫。平気。平気。

基 そっど？

中島 そんなのじゃ表わせないくらいだから、そりやすーいから。

基 ほんと？

中島 ほんと。

基 ……(窓際で、外を見る。うれしそうだ) ふふん……

中島 ……(新聞を読む)

間。車が通り過ぎるS.E.

基 お父さんに電話しなくちゃ。

中島 え？

基 だって、しなくちゃ。

中島 するのさ。

基 だって、しなくちゃいけないだと思っ。

中島 ……うん。

基 お母さんにも話ししなくちゃ。

中島 別に今日でなくても。もう遅いし。

基 うん。

中島 寝てたら迷惑だろ。

基 うん。

中島 明日でもいいんじゃないか。

基 ……

いったんあきらめたが、電話機に向かう基。

中島 ……(心配。話しかけたそうに動く)

基 (受話器を上げる、中島の方を振り向く) だってもう何日もないのに。

台所の方から夜間の湯の湧く「ピー」というS.E. 照明が変わる。基を切り取るように。

一場 基のモノローグ

基 山の中に細い川が流れていた。冷たい水。はたして入った私の足が折れるんじゃないか、と思った。「お父さん、お魚いないよ」私が言うと父は答えた。「皆寒いからお休みしてるんだよ」大きな石の上に腰掛けて煙草をふかす父。おいしそうに煙が流れて、灰色にくすんだ遠い山の中に溶けていった。休憩が終わって歩きたず。父の大きな肩はひよひよいと歩きにくい石ころだらけの道を越えていく。私はお魚のことを考えながら歩いた。「あんな冷たい水の中で寝てたらお魚も凍っちゃう。折れちゃう」考えたら怖くなった。だから考えないようにして歩いた。考えないようにすればするほど頭の中にお魚が湧いた。怖くなった。涙がこみあげてくる。困った。どうしていいかわからなくて私は泣きだしてしまった。父はびつくりしてなにが起こったかと近寄ってきた。慌てふためいて、私を抱っこしてくれた。「足、痛いのか」さすってくれた手は、こっこっとして、寒い空気なのに不思議に冷たくもなっていない。温かい手だった。

途中から水のS.E.。その間に島之内が入ってきて、テーブルに座っている。モノローグが終わると基は退場する。

二場 基と中島の部屋・その深夜

中島 なんだよ。そんな用事で来たのかよ。

島之内 そうよ。

中島 こんな遅くにわざわざ。

島之内 だからそうだって。

中島 困るよ。

島之内 わかるよ。

中島 困るよそんなのは。

島之内 そりゃ困るよね。

中島 おまえはどう考えるんだよこんなこと。賛成できるのかよ。

島之内 私はだって。

中島 だってなに。

島之内 頼まれたんだし。

中島 頼まれたんだしってなに。そんなのでいいのか。お前頼まれたらなんだってするのか。

島之内 そんなじゃないよ。

中島 頼まれたら当局のスパイ引き受けるし、頼まれたら組織の構成員リストコピーして町中にはりまくって

やうし、頼まれたら組織会議のテーブルの下に盗聴器しかけて録音したテープ街宣車のテレコにはおりこんで大音量で繁華街ゆっくりドライブしちゃうし。

島之内 ちょっと、中島くん。

中島 思想に合うのかよだいたい婚姻届にハンコ押してやれ、なんていうことがき。政治観とつか社会観と

いなか家族観というか、宗教観というか、

島之内 宗教観は関係ないでしょ。

中島 合うのかよ。「致すのかよ。そういう、おまえのいろんなそういうことに。痛まんのか胸とか腹とか身体なんているかいろいろ大切なところがさ。」

島之内 大切なところって。

中島 わからんよ。いろいろあるだろ。膝の裏とか肘の内側とかみぞおちの三センチほど下とかかかとつま先の間の、その足の裏の……

島之内 土ふまず？

中島 土ふまずとか。

島之内 そんなの私の大切なところじゃないし。

中島 島之内！

島之内 なによ。

中島 ああ……

島之内 ……私も困るよ。でもね。

中島 結婚なんて人身売買の制度じゃなかったの？国家権力に自由な性愛関係を結ぶ権利を譲り渡す人民としてこの上ない非人民的なあるいは反人民的なふるまいだっていることじゃなかったの？

島之内 そりゃそうだと思うよ。でもね。

中島 捨てたの？そういう思想はとっくの昔に。

島之内 捨てちゃいませぬよ。でも中島くん、ゆうちゃんのこと……

中島 婚姻届を提出する、ということは戸籍っていうところに明確に登録するってことだよ。いまだに個人の尊厳よりは家の権威を尊重する封建体制の遺制たる性格のあの制度を是認するのみならず「ちらから頭を下げて認めて下さい、って媚び売ってお願いするようなこと」どうしておまえが俺に仲介できる？

「一緒に住んだ時拒否しなかったか？断固として事実婚を貫こう、って言い放たなかったか？りりしくて誇り高くてすてきだったじゃないか。自分の時はそうしておいて、他人の時はまた別だって言うの？それは矛盾して……」

島之内 矛盾してるかもしれないよ、でもね。

中島 矛盾してたら言う資格ないじゃないか。そもそも……

島之内 矛盾してるかもしれないよでもね聞いて中島くん聞いて聞いて聞いて聞いて中島くん聞いて！

中島 ……

島之内 聞いて。

中島 聞けよ。

島之内 私たちだめだったじゃない。

中島 そうだよ。

島之内 せっかく家決めて一緒に暮らし始めたのにしばらくしたら途中で中島くん逃げて。

中島 逃げたよ。

島之内 たいした効き目なかったじゃない。結婚制度がどうしたこうしたなんていう理屈は。

中島 そうだったよ。

島之内 カミかえっても力みかえるだけのことよ。そうだったでしょ。

中島 だからなに。だから無原則に世間の反動的な風習に従えばいいっていうわけ？

島之内 私だっている思うし。

中島 いろいろってなに。

島之内 思わないの？中島くんは。

中島 だから何のこと。

島之内 ゆうちゃんのことを。

中島 ゆうちゃんのなに。

島之内 私がゆうちゃんだったらどうだろうって。どう思うだろうって。

中島 ……

島之内 思うよ。

中島 ……どう思う。

島之内 召集札状が来て、一週間かそこらで彼氏が兵隊にいつちやう。二週間かそこらだったら、
中島 八日間。

島之内 八日。そう。八日たったらこの人はいなくなる。きつとこの世ではもう一度と会えない。

中島 わからないよそんなのは。

島之内 わかっているじゃない。

中島 わからないじゃないかひよつとしたら。

島之内 正直に話そうよ。腹割って。私だって正直に話してるんだから。

中島 ……いいよ。

島之内 ごめんね。

中島 それで？

島之内 生きて帰って来れるわけじゃないじゃん。レットルはられてるのに。元活動家で。反政府的な政治集団の

元組織メンバーで。

中島 元でしかない。

島之内 今だって市民運動のメンバーで、「精神障害者の福祉を切り捨てるな」とかいうビラまいたりして
たら。

中島 たかが市民運動なのにな。

島之内 おしまいでしょ。最前線送りでしょ。今どきほとんど例外なしでしょ。帰って来てないじゃない。現
に。

中島 ……わからんざ。

島之内 わかるさ。そんな残りの一週間、

中島 八日間。

島之内 ……八日間、どう考えて過すだろう。って。

中島 どう考えるんだよ。

島之内 わからないよ。本人じゃないときつと。でもひよつとしたら思うかもしれないじゃない。

中島 婚姻届だけでも出しておこうって？

島之内 思うかもしれないよ私だって。

中島 何のために。もう死んじゃうのにこの男は。

島之内 だからわからないけど。

中島 もう死んじゃう男のために戸籍汚してどうなるっていうんだよ。

島之内 戸籍汚すってなに。

中島 そんな感覚だよきつと。ゆうちゃんは活動家でもなんでもないんだから。

島之内 だったらよけいそうじゃん。

中島 そうってなに。

島之内 混乱してるんじゃない。わけわかんないじゃない。

中島 そうだよ。わけわかんないんだよ。だから困るんじゃないか。

島之内 なにか思ってるのしか思えない。

中島 なにかってなに。

島之内 わかんない。強烈ななにか。

中島 なんだよそれ。

島之内 自分では言えないからって私に頼んでくるんだよ。

中島 だからなに。

島之内 私は誰？

中島 ……？

島之内 誰？私は誰だと思っ？

中島 あなたは島之内ひろみさん。

島之内 中島くんの昔の女だよ。「一緒に住んでた、普通に言えば妻だった人じゃん。いくら今普通につきあっているからってそんなのある？ありうる？」

中島 知らんよそんなの。普通につきあっているほうが悪いんじゃないか。

島之内 頼みにくい人に頼んでるんだってことでしょ。合理的じゃない要求かもしれないけど、よっぽど切羽詰まったんだ、てことでしょ。

中島 だからなんだよ。おまえはなに？その覚悟に打たれましたって？籍入れてあげなさいよ、なんていう筋合いがおまえのどこにある？

島之内 そんなんじゃないよ！

中島 どんなんだよ！

島之内 そんなこと言いに来たんじゃない！

中島 じゃ何言いに来たって言うんだよ。

島之内 私はだから、

中島 うん。

島之内 頼まれたから、

中島 うん。

島之内 だから、

中島 うん。

島之内 来た。

中島 来たって。

島之内 来ただけだよ。

中島 なにしに。

島之内 なにをするってことでもないよ。ただ来よう、来なくちゃ、つて。

中島 なんだよそれ。

島之内 わかってあげなさいよたれよりもあなたが！

中島 ほっといてくれよ俺たちのことなんだから！

島之内 ……ほっとくよそりゃ。

中島 ……

島之内 来なきやよかったね。

中島 ……

島之内 ……

間。中島、立つ。窓に。

島之内 ゆうちゃんは？

中島 コンビニ。

島之内 買い物？

中島 チョコレートだと思う。切れちゃったとか言つて。

島之内 チョコレート好きだもんね。

中島 体重の八〇パーセントはチョコレートでできてるんだと思うよ。

島之内 水でしょ。

中島 チョコレートなんだよあいつの場合。

島之内 あまーい血が流れてるんだね。

中島 まっ茶色の血。どろどろ。

島之内 アーモンドが入ってたりして。

中島 つまるでしょそれじゃ血管が。

島之内 つまらないように時々コリコリって体操したりして。関節のところでコリコリすりつぶしてたりして。

音がする。時々。体操してると。コリコリ、ゴリゴリって。

中島 体操はしてるけど。時々。

島之内 それだよ。すりつぶしてるんだよきつと。

中島 戦争が終わって

島之内 え。

中島 平和になったら。

島之内 うん。

中島 あいつだって別の男と結婚することになるんだと思う。

島之内 うん。

中島 だったら結婚歴のない女、つていうことになつてるほうが有利に決まってる。調べられたらすぐ敬遠されて、一度と結婚できないかもしれない。

島之内 そうだよね。

中島 無茶苦茶だと思う。

島之内 うん。

中島 やっぱ無理だよ。

島之内 うん。

中島 おかしいと思うよ。

島之内 私も思う。

中島 ……

島之内 おかしいと思うよ。

基 入場

基 おかしくなんかないぞ。

中島 え。

基 ちつともおかしいことなんかじゃないぞ。

島之内 ……

基、中島の座っていた椅子に座る。ビニール袋を開けながら。

基 若い男女がひとつ屋根の下に暮らしていて、愛しあっていれば、

中島 うん。

基 当然のことじゃない。ほとんど結婚してるんだからさその二人は、婚姻届け出してちゃんとするのは自然なことだと思うよ。ね？

島之内 ……うん。

基 だからちゃんとしてください。

島之内 ……

中島 俺はぎ。

基 はい。

中島 押さないよ。

基 なに。

中島 ハンコ、押さない。

基 押して。

中島 絶対、押さない。

基 押してよ。

中島 押さない。

照明、切り替わる。

電車の車内のSEに。

四場 基のモノローグ

島之内・中島の二人は移動する。五場の演技空間に。

基

島之内さんは強い人だ。戦争に向かっていくこの世の中がおかしいと思つて、戦争に反対する運動に加わつて、資本主義の仕組みがおかしいんだ、つて考えるようになって、政治運動の組織に入つて、そこで頑張つた中島君に出会つた。恋が始まつて、一緒に住むようになったのに、中島くんは途中で消えて、借金こしらえて職場からも逃げて組織からも逃げて、一人取り残されて。しばらくしたら新しい女ができたよ、と言つて彼は現れる。新しい女は自分とは似ても似つかぬわけのわかんないノンポリ女で、自分のことを根本的に否定されたように感じたにちがいない。今でも同じ家に住んでいる。一人には広い家。

私は強い彼女が好きだ。わけのわからなくないしっかりした考えの彼女の立ち姿は、白くて高い木のようだ。冬の湖の中から幹をつぎだしている、名前は知らないけれど白くて高い木。私は時々その木に甘えて枝で羽根を休めさせてもらう。木の枝は堅くて、強い風が吹いても身じろぎもしない。風なんて知らない顔ですまして立っているのだ。

基、テーブルに静かに突つ伏して、うたた寝を始めるようだ。

五場 電車の車内

島之内と中島が並んで座席に座っている。

島之内 食べる？(中島に開いているお菓子の袋を示す)

中島 うん。(食べる)

島之内 女はっかりだったでしょう。

中島 うん。

島之内 ばっかりつてことはないけどね。少数男もいたけど。

中島 うん。

島之内 ひも。

中島 ……

島之内 靴のひも。

中島 うん？

島之内 ほどけてるよ、靴のひも。

中島 ああ……うん。

島之内 結びなさいよ。

中島 うん。

島之内 ……

中島 ……

島之内 もう。

島之内、手を伸ばして結んでやろうとする。中島、その寸前靴を脱ぐ。靴下がむき出しになる。

島之内 ちよつと。

中島 むー……気持ちいい……

島之内 なにそれ。(周囲を見回す)

中島 いいじゃん。見えないんだから。

島之内 いいけど。

中島 大丈夫。電車下りるときは履くから。

島之内 あたりまえでしょ。

中島 蒸れるんだよ。長い時間履きっぱなしだと。

島之内 特異体質。

中島 島之内、蒸れないの。

島之内 蒸れない。

中島 蒸れるでしょ。人間なんだから。蒸れないほうが特異体質だよ。脱いだらっ気持ちいいよ。

島之内 いいよ。脱がない。

中島 無理して。

島之内 無理してない。

中島 気持ちいいよ。

島之内 よくない。

中島 そんなことないさ。(島之内の靴に手を伸ばそうとする)

島之内 シッ、シッ、シッ

中島 ……無理して。

島之内 してない。

間。中島、手を伸ばしてお菓子を食う。

中島 においも同じだもんなあ、昔と。

島之内 なに？

中島 集会場の。

島之内 におい？

中島 隣、中華料理屋？

島之内 そうだよ。

中島 そうかそうか……

島之内 なに。

中島 今日初めてつきとめたよ。

島之内 中華料理屋を？

中島 久しぶりに来て初めて気づくってことがあるんだねえ。

島之内 中華料理屋の存在？

中島 存在は知ってるでしょ。ナスビ定食食ってたんだから。

島之内 あそうか。

中島 ていうよりあれはニンニクのおいだよな。

島之内 集会場でしょ？

中島 強烈に充満してますっていうんじゃないだよ。なんていうの、ただ、あの建物と、あそこに集う人々が、独自に醸し出すニュアンス、っていうかそれがさ。

島之内 ニュアンスってなによ。

中島 貧乏臭いっていうか、ガラがよくないっていうか、おしゃれじゃないっていうか。

島之内 おしゃれっていうのからはそりやほど遠いよねえ。

中島 そういのはかすかに漂うあのニンニクのおいあつてそのものだったのだ、って。

島之内 ニンニクがニュアンス？

中島 安物の作りのコンクリートのビルである、とかそういう一般的な側面じゃないんだよ。世の中にあまたあるそうした安物ビルの中から、あの建物でしか漂わすことができないであろうといういわゆるひとつの強烈な独自性というか、

島之内 そんな力入れなきゃいけないこと？

中島 いやあ、堪能した。

島之内 単におなかへってニンニク食べたかっただけのことじゃないの？

中島 堂々とするよな。公然と大衆集会を催すっていうのは、このご時世に。勇気があるって言うのか。

島之内 スローガンはおとなしいもんだだけだね。

中島 いやいや。その方針はすごいよ。大胆そのもの。あれで何人くらいいたんだろ。

島之内 二十人強、っていうところじゃない？

中島 またその動員の少なさが大胆そのものなんだよ。

島之内 褒めてるようには聞こえない。

中島 褒めてるんだよ、俺は。なに言ってるんだよ。そんなにしか動員できないんだったら普通やらないって集会なんて。傷つくことにもう少し敏感だったりするさ。

島之内 やっぱ褒めてない。

中島 活動家の発言が堅いっていうのも変わらんよなあ。漢字ばかりっていうかスローガンの棒読みっていうか、呪文というかお経というか

島之内 ……また。

中島 いや少なくともあの中に初めて来た人がいたとして、特にあの基調報告なんてわけわからんよ？ 「第三次ガイドライン改定に伴う防衛庁幹部の私的シンクタンクが策定した同盟諸国政府高官との密約を革命的に暴露する行動を通してわれわれが展望を切り開くために今まさに全人民に問われているメルクマルたる方針の純化」とかなんとかやられて

島之内 それがなに。

中島 お経なんだよ。日本語じゃないといってもいい。

島之内 大衆集会だからって水準を落とした情勢分析なんてしても意味ないじゃん。

中島 活動家はそういうんだよ。教条的っていうか。

島之内 教条的ってなによ。…あ。

中島 懸命に頑張ってるんだって言うんだらうけど。

島之内 ……ちよつと。

中島 ん。

島之内 ……(あえいで、空気を手であおったりする)

中島 あ、におろ？

島之内 におろってなもんじゃないでしょ。襲ってきたよ今、突然、ツーン……うわ。

中島 (島之内の方に身体を寄せて)……お、うわ、ほんと。

島之内 靴はきなさいよ。

中島 いやいやいや。

島之内 いやいやいやいやいやいやいやいやいやいや。はきなさいよ。

中島 いやいやはくのもどうかと思つて。

島之内 なにがどうか。

中島 だつてあれだよ？さつき脱いだからこの程度で済んでいる、という分析のしかただつてあるんだよ？今はくでしょ。また蒸れ始めるでしょ。

島之内 うん。

中島 そうするとこのにおいて、ていうのはまた「段と成長してゆくわけですよ。それこそたくましく。どつちを取る？」

島之内 どつちつて。

中島 今この程度なのと、あとでものすごいのと。

島之内 どつちもいや。

中島 それは通用しないんだなあ、この場合、残念ながら。

島之内 なにが残念ながらよ。ものすごいって言つてもそれは中島くんがおうちに帰つて靴脱いでからの話じゃない。今靴はいて抑えこんじゃいなさいよ。

中島 いやいやいや、そんなそんな。

島之内 どうでもいいけどどうれしそだよ。

中島 成長した足のおいというのはだね、そんな生易しいところで済むものではない。

島之内 どういうもの。

中島 靴の革なんてモノともしない。突き破つて外部の人に襲いかかるのだ。

島之内 殺人クモかそいつは。

中島 どつちを取る？五分後の猛烈な地獄と、今から約二十分間の心地よい程度の刺激臭と。

島之内 心地よくないつて。

中島 私なら答えはひとつだね。

島之内 ……成長したんだね、そういう側面は。

中島 ……確かにそうかもしれない。でもほら。

島之内 なに。

中島 大丈夫だよ。

島之内 え？

中島 今、におわないから。ほら。

島之内 ……ほんとだ。なれたんだらうか。

中島 いやいやそういうことではない。

島之内 どうでもいいけどどうしてそこまで上機嫌？

中島 時々襲つてくるもんなんだよ。こういうのは、風向きの関係か、それともおいそのものの性質による

ものかは判然としないけれども。

島之内 時々つて。

中島 どういう仕組みなんだらうか。ひとつ分析してみてくださいその唯物論的弁証法で。

島之内 弁証法は足のおいを分析する道具じゃありません。

中島 酔うんだよなあ。

島之内 においに？

中島 活動家。

島之内 何に酔う？

中島 酔うんだよオノレの毅然とした闘いっぷりに。

島之内 酔うつて何よ。

中島 陶然とする。うっとりするんだよ。組織に入つてること自体がなんというか酔わせる。自分を正当

化してくれる。自分たちは正しく、そして無知で遅れた人民大衆の海が目前にある。

島之内 そんなふうには考えないつて。

中島 意識じゃないんだよ。もうそりや無意識のレベルで、染み付いてるんだつて。依存症も重症になると組

織の幹部の言うことを疑えなくなる。麻薬だよな。自己正当化の麻薬

島之内 …… 変わらないね。

中島 あなた方が変わらないからでしょ。

島之内 食べる？

中島 うん。(食べる)

島之内 ごめんね。

中島 なが。

島之内 皆も会いたがってたからさ、久しぶりに。

中島 最後になるんだしな。

島之内 ……

中島 ごめんごめん。

島之内 苦しかったでしょ。皆と顔合わせるのは。

中島 でもないよ。

島之内 ほんと？

中島 まあな……

島之内 …… ごめんね。

中島 苦しくはないよ。尊敬してるんだから。

島之内 そうなの？

中島 してるさ。なんていうのか、とんでもないロマンチストなんだと理解してる。皆のこと。

島之内 どういうこと？

中島 自分の身を守ることより世のため人のため、って局面になったほうがソワソワできるんだから、それがまた理解されなくて嫌われたりしても変わらないんだから、これはもうどうしようも収拾のつかない程度の強いロマンチストなんだよ。

島之内 バカにしてるよねえ。どこか。

中島 してないって。身を守る、どころじゃないじゃん。今やってる、てことはもう身を晒してる。ってことじゃん。普通の神経ならできないことだよ。

島之内 やっぱバカにしてる。

中島 してないって。とんでもなくすてきな人たちじゃないか。… 友達は少ないけど。

島之内 ほらやっぱり。

中島 先に死んでいくのはそれに比べりゃ楽な道だと思うよ。

島之内 ……

中島 だから痛むよチクチクさ。その、足の、かかとと、つま先の間の、ひっこんだ部分、その、

島之内 土ふまず？

中島 土ふまずがさ。

島之内 どうしてそこが痛むかなあ。

中島 大切なところじゃないの。身体の中の。

島之内 普通胸は痛むけど。

中島 胸が痛むなんて平凡な痛み方じゃないわけさ。

間。中島、お菓子を食べる。

中島 ニンニクのおいのする風景だよな……

島之内 え？

中島 この電車も。

島之内 そうっ……

中島 マンションどう？

島之内 どうして。

中島 書類燃やしてないか？

島之内 なにそれ。
中島 燃やしてただろベランダで。昔。組織拡大部の会議の文書、廃棄しなくちゃいけないやつを。消したつ
もりで外出して、
島之内 あ。
中島 消えてなくて煙が出て消防車が来たことがあったじゃないか。
島之内 ああ。
中島 大家さんに「出ていけ」って……あ。
島之内 燃やさないよ。もう忘れてよ。
中島 う。
島之内 なに？
中島 きた、すごい。げえ。(においだ)
島之内 ほんと？(身体を中島の方に寄せる)
中島 ……げえ……げえ……
島之内 うわうわうわ。
中島 ……自分のものながらびっくり。
島之内 広いんだよ。
中島 え？
島之内 部屋、一人だとね、広い。
中島 ……
島之内 ……(二人)においにもたえる(やつ)ばりはきなさいよ。
中島 そうするかな……

照明、切り替わる。部屋の中に基が一人でいる。

六場 基の室内

基は一人、テーブルで食器を拭いている。立ち上がる。戸の方を見る。座る。拭き続ける。立ち上がって、その方を見て、歩く。止まる。照明のエリアのぎりぎり内側に立ち、部屋を眺めて、立つ位置を変えて眺めて、見る角度を変えて眺めて、手にした器を床に置いて、眺めて、そしてエリアの外に出て部屋を眺める。

基 帰りが遅いと私はそれでも普通ではいられない。中島くんは長いこと行ってなかった政治の集会に行くといって出掛けた。それは知っているのに。部屋の中には灰皿がある。万年筆がある。小皿がある。井鉢があって、大きなナベまである。絶対中島君の選びそうにはないはずのネコのキャラクター入りのかわいいタッ

パー、ピンクの湯のみ、不自然にデザインの凝ったはし置き、そんなものが私を苦しめるのだ。

基、照明のエリアの中に入ってくる。灰皿を手にとつて、持ち上げ、今にも穏やかに割ろうとする。やめて、テーブルに置き、電話をかける。その灰皿を見つめたまま。

基 もしもし、私……佑子ですけど……お父さん？うん。私……ん？元氣。え？皆おる？そう、ひとり。なん
で？……あそう。……なにもないけど別に用事は、ないよ。なに。どうしてるかなって、……ん？そう。ツ
トムは？え？仕事。仕事、続いているん？またやめた？あかんなあ、人のこと言えへんけど……何も無いって
ええやん別に。たまに娘が親の様子でも探つておもうって電話してもなんか不自然かなあ。……気色悪いこ
となだよ。なによ。どう？愛しあっている？誰て。お父さんとお母さんやろ。あほて。あほはないやん。大事
なことやで。人間最後は愛やで。お金はおの世に持つていかれへん……え？うん。帰るよ。今度……今度は今
度。近いうち。うん。わかっている。……ないんや。つて帰るお金。……そういのはぐやしいやん……くやしいよ
ほつどいて。うん。……うん。結婚？まだ、ていうか、せえへんねんて。……いくんやてさういうわけに……ライ
フスタイルっていうんやから今どきの、これが……不自然なことやないんよ。お父さんええかげん頭切り換え
んと疲れるばっかりやで。ツトムかてきつくないです。えらいことつて、失礼なこと言うなあ。あ。

なにか玄関の方に気配を感じたらしい。

基 ごめんお父さん、そういうことで。うんそういうことで。え？わかっている元氣にする……気つける。お父
さんもな、お酒あかんで飲み過ぎたら、うん。ほんなら、うん。お母さんによるしく。ついでにツトムによ
ろしく、また電話するし。うん。お休み。失礼します。はい……お休み……

電話を切る。何事もなかったかのように食器を拭き始める。しかしほんとになにこともない。

基 ……なに？違うの……？

立つ。玄関の方に去る。

戻ってくる。灰皿を見る。持ち上げる。床にたたきつけて割る。

基 ……もう。

しゃがんで、割れた破片を片付け始める。ティッシュとゴミ箱とガムテープを持ってきて、掃除する。

基 悲しい、というより嫉妬の気持ちの方が強い今の気分を情けないと思う。私はわがままな野郎だ。あいつ
の気持ちなんか想像しない。私はただただあいつにこにいてほしい。それだけなのだ。

基は掃除を続ける。

七場 島之内の部屋

六場の途中から島之内が自分の部屋に戻ってきて上着を脱いだり、茶を入れたりしていた。テーブルの上にたぐさんの食器。照明が変化した途端、島之内も食器をひとつ割る。

島之内 中島さんと……一緒に買った……趣味の悪い……カレー皿

しばらくその破片の散らばりを見下ろしている。テーブルの上にある額入りの絵を取り上げて

島之内 中島さんと同居して、友達がお祝いにくれた、絵。シヤガール……ラリーローランサン……あれ？なんだっけ……

たたきつけるのをやめて、テーブルの上に置く。

島之内 ……あーあ。

奥に去る。ごみ箱とガムテープを持ってきて、掃除を始める。中島、そこへ現れる。

中島 なにしてる。

島之内 あれ。

中島 掃除？この夜中に。

島之内 おうち帰ったんじゃないの。

中島 うん。まあ。

島之内 まあってここはまあじゃないよ。私のおうちだよ。

中島 元おれのおうち。

島之内 今あなたのおうちじゃありません。

中島 いやいやいや。

島之内 なにがいやいやいや。

中島 お茶飲もうよお茶。(飲む)

島之内 ああ。

中島 なに。

島之内 それ私の。

中島 あそうだね……どれ？

島之内 どれでもいいけど。

中島 (探す) ああ。

島之内 ん。

中島 これ。

島之内 なに。

中島 使ってたんだこれ。

島之内 え？

中島 俺のじゃん。

島之内 そうだっけ？

中島 そうだっけ。

茶を湯飲みに入れ、飲む。

中島　なに、割ったの？

島之内　……

中島　なに割った？（ごみ箱から大きな破片を拾い上げる）これはねえ……

島之内　カレー皿。

中島　カレー皿。

島之内　趣味悪くて。

中島　ああ。

島之内　割れて幸い。

中島　そう？

島之内　新しいの買えるからせいせい。

中島　かわいそうになあ。

島之内　でも面倒。

中島　ボロクン言われてなあ。

中島、掃除を手伝おうとする。

島之内　いいよ。

中島　面倒なんですよ。

島之内　危ないよ。手、切るよ。

中島　いいよ。手伝うよ。切つてよガムテープ。

島之内　手切るつて。

中島　いいから。

島之内　危ないから。（強く）

中島　……そうか？（気圧されて）

島之内　……

中島　じゃお客さんでいるよ。

島之内　危ないから。手、切るから。

中島、靴下を脱ぐ。

島之内　ああ、くつろぐう。

中島　だってこれが楽しみで。

島之内　なにが楽しみ。

中島　振り回したりして。

島之内　やめてよ飛ぶでしよ。

中島　飛ぶってなに。

島之内　においの菌が。

中島　においつて菌か？細菌？

島之内　バイ菌。

中島　ボロクン言われて。なあ？（いとおしそうに靴下のおいをかいで）おおー。

島之内　……

中島　すごいよこれ。かぐ？

島之内　遠慮します。

中島　……（かぐ）……すごいのは（）かります

島之内 ちよつと。
中島 はい。
島之内 おうち帰るんでしょ。
中島 帰るよ。
島之内 ゆうちゃん、待ってるんでしょ。
中島 待ってるだろね。
島之内 ……なに？
中島 最後だと思っからさ、きつと。
島之内 え？
中島 ここ来るのも。
島之内 ……うん。
中島 ……(ぼんやりしている)
島之内 ……(掃除している)
中島 「種類だけじゃないんだな。
島之内 え？
中島 二つ、…三つ、…
島之内 なに？
中島 三種類はいるよ。
島之内 ……
中島 カエル。
島之内 そう？
中島 声が高いのと、低いのと、…テンポが速いのと、ゆっくりなのと…
島之内 田んぼなんかあつたかな。
中島 あつたじゃないか。あの工場の。
島之内 工場のどい。
中島 ええ？
島之内 あつたじゃないか。その、「二、三、つて大股で歩いたら十歩くらいの幅しかない田んぼ。
島之内 工場の…どつち？
中島 だから、東…北、の。奥行きはずごく、百メートル走くらいできるんじゃないの？「こんなと」耕運機でつゝ走ると気持ちいいかもしれないよね、とか言つて。
島之内 誰が？
中島 おまえが。言つたよ。「帰りは歩いてみますから」つて不動産屋先に帰して。初めて家見に来た日。
島之内 ここに？
中島 「徒歩十二分つていうの、確かめようぜ」つてストップウォッチ持つて。
島之内 ……歩いたっけ。
中島 「ゆつくりめに歩いてやらないとだめだよ。こういうのは 徒歩十二分』どころじゃなくて 急ぎ足十二分』つていうほうが多いんだぜ」「駆け足十二分かもしれないよ」とか言つて。
島之内 ……結局、迷つた。
中島 迷つたんだよ。結局、駅まで三十分もかかつて。
島之内 あんまりゆつくり歩くからでしょ。
中島 関係ないでしょ迷うのとは。
島之内 あるよきつと。「待て待てゆつくり歩け、ゆつくり歩け、だまされるな、不動産屋にだまされるな」とか貧乏臭く精神統一みたいなことしてるから方向わかんなくなるんだよ。
中島 精神統一なんてしてません。
島之内 してたしてた。より目になつた。
中島 全部人のせいにするなよおまえも一緒に歩いてたんだぞ。

島之内 私してたんだもん精神統一。

中島 え。

島之内 だからわかんなくなつたんだもん。

中島 どうしてするんだよそんなこと。

島之内 するよだつてしかたないじゃん。

中島 なにがしかたない。

島之内 だつてそうじゃない。不動産屋さん、なんかいかにもうそつきそうな顔してたんだもん。人相悪かつ

たもん。

中島 ああ。

島之内 中島君も言つてたじゃん。「あんなもんなだよきつと。不動産屋なんかどうせ皆半分やくざなん

だから」とかなんとか今思えは無茶苦茶なこと。

中島 だつて家探すなんて初めてだつたし。

島之内 「またこちらから連絡しますから、どうもどうもどうもどうも」てもう、恥ずかしくなるくらい。ハ

コペコして。こつちがお客さんなのに。

中島 いやいやだつておっかなかつたよ、あの不動産屋は

島之内 部屋案内された時なんか中島くん、震えてたよ。

中島 「契約せんと帰らるおつもりでつか」とかなんとか言つてドスでも出てくるんじゃないかと思つた

もん。

島之内 どうして急に関西弁になるの。

中島 いやなりそうじゃないの実際。関西人の半分くらいはヤクザだつて言うよ。

島之内 また無茶苦茶言。

中島 損してるよねえ、あの顔は、实际いい人だつたもんねえ。

島之内 契約したらキヤラメルくれたし。

中島 え。

島之内 なんだそれって思つたもんね。

中島 なにそれ。

島之内 なにそれってなに。

中島 なにそれおまえ。キヤラメルなんてもらったの。

島之内 もらつたよ。契約して、「どうもお世話になりました」つて言つてドア空けようとしたら後ろから

こつそり手出してきて、「毎度おおきに、奥さんこれどうぞ」つて。

中島 なんだそれ関西弁になつてるじゃん。

島之内 私の記憶の中ではそう定着してる。

中島 おまえの中では関西人の半分は商売人、てことになつてるんだな、きつと。

島之内 そんな無茶苦茶なことは言わんよ。

中島 なんだそのキヤラメルは、俺にはくれんかつたぞ。

島之内 おまけじゃない。

中島 おまけっなんの。

島之内 賃貸契約のおまけ。

中島 賃貸契約のおまけだつたらなんか他にがあるだろう。

島之内 ほかにつてどんな。

中島 ドアもう一枚つける、とか。

島之内 そんなのつけてもらつてうれしいか？

中島 トイレ二重扉みたいにしてみたりして。

島之内 何の意味があるの？それは。

中島 意味はないけど。ゴージャスになつたりして。

島之内 そんなゴージャスなトイレ緊張して用が足せませんね。

中島 いやいやいや。

島之内　なにがいやいやいや。
中島　結局徒歩でなん分かかるんだか、確かめたことなんかないよなあ。
島之内　私もない。
中島　ないの？長いのに、ここ。
島之内　ダッシュ五分、とか、自転車モーレッツ七分、とかいう感じでは把握してるけど。
中島　徒歩だったら何分かかるんだろ、いったいほんとは。
島之内　さあ。
中島　帰り道、今度こそ確かめてみるか。
島之内　ふふん……
中島　……
島之内　……
中島　四種類。
島之内　三つしかないよ。
中島　いやいやいや……

二人、耳を澄ませている。

中島　お茶飲もうよ。
島之内　うん。
中島　座ろうよ、ほら。
島之内　うん。
中島　大丈夫だよ、もう。
島之内　うん。

島之内、掃除をつづけている。

中島　お月さんを覚えてるよ。
島之内　お月さん？
中島　松江の駅前の、旅館の。
島之内　松江。
中島　冬に、電車で。
島之内　ああ。
中島　ああ、つて。お前は見てないんだよ。旅館に着いたらさっさと寝ちゃったんだから。
島之内　あそうか。
中島　仲直りのつもりで行ったのに。旅行。なあ……
島之内　いいじゃん。
中島　くせなんだもんなあ。
島之内　しかたないよ。忘れたらいいよ。
中島　思いましたんだよ。召集令状もらって、この二・三日、あのお月さんがなんだか知らないけど出てくるんだよ。ここにここに。
島之内　土踏まずじゃなくて？
中島　お月さんはおでこのとこに出てくる。
島之内　うん。
中島　何だろう。なにがいったいそうだったんだと思う？
島之内　なに？
中島　機嫌悪くなったの。俺が。
島之内　私に聞いても知りません。

中島　だって突然だよ？

島之内　だって、って言われても。

中島　きつかけがあるんだと思うんだよ。いくらくせだとは言っても。

島之内　しょうがないじゃん。旅行行くといつもそうなんだから。

中島　おまえなんか俺に言った？

島之内　だからあなたのことだから私知らないって。

中島　……思い出すんだよ。かわいそうだったなあ、って。

島之内　自分のこと？

中島　おまえのことだよ。

島之内　あらま。

中島　提案したのおまえなのに。せっかく仲直りしようと思ったのに。口もきかないで寝ちゃったんだよ。おまえ。

島之内　だって中島くんが口きかないんだもん。することないし。

中島　かわいそうだよ……泣いてたんだよ、俺。その時。

島之内　どの時？

中島　お前寝ちゃってから。ひとり。布団に入る気にならなくて。

島之内　どうして？

中島　どうしてだろう……明るいお月さんだった。電気消したら、部屋の中が明るくなるくらいだった。電車が走ってたよ。JRの、長い電車。貨物かな。音が聞こえてた。おまえの寝息と、電車の音と。

島之内　そう。

中島　かわいい顔して寝てたんだよ。

島之内　私？

中島　……今はカエルの音だけど。

中島、テーブルの上に置いてあるマグカップをもてあそぶ。

中島　あれ。これ見覚えあるよ。

島之内　……

中島　これも、俺、使ってたやつだよ。

島之内　……

中島　これも。捨てたんじゃなかったの。

島之内、立つ。そのマグカップをひとつつかんで、落として割る。

中島　え……

島之内　これ、わたしのです。

中島　え、でもそれ、

島之内　あとから買ったんです。

中島　でも端っこ欠けてるところまで、

島之内、もうひとつを落として割る。

中島　……

島之内　バスの中だね。

中島　え？

島之内　バスの中でおしゃべりしてたの。

中島　だれが？

島之内 女の子。十四才くらいの。中学生。

中島 うん。

島之内 はすっぱな感じなんだよ。スカート短くて、髪の毛も半分茶色くて、お化粧も少ししてたと思う。まぶたがちよっと青かったもん。制服なのに。それがさ。大人になったら私は働かない。だんなに養ってもらう、とか。私はどっちかいうと働いて浮気する、とか。うざったいじゃん、そんなのは、とか。

中島 うん。

島之内 こんな子でもそうなんだなあ、と思った。十四才の女の子は誰でもそうなんだなあ、と思った。

中島 なにが。

島之内 おしゃべりしていると、鼻の奥がツーンとして、涼しくなって。

中島 え？

島之内 そういうおしゃべりはそうなんだよ。鼻の奥がツーンと涼しくなって。

中島 ……

島之内 大人になった自分の横には誰か絶対ムサイおっさんがいて、自分はおばさんになって。そういうおしゃべり。

中島 うん。

島之内 私もツーンとしたよ、鼻の奥が。十四歳の時も、その時も。

島之内がもう一つマグカップを振り上げるのを中島、止める。島之内、しばらくすると手がぐ。手にしたマグカップを割ろうとするのだ。中島、それを止めようとしてもみ合う。

島之内 ……

中島 ……

島之内 ……いい、いい。もういい。大丈夫だから。

中島、靴下をはく。掃除を始める。

中島 臭い靴下でもこういう作業には役に立つよな。

島之内 愛してるって言って。

中島 え。

島之内 たった一回だけでいいから私のためだけに言って。

中島 え？(作業が止まる)

島之内 言うてから死んで。

中島 ……

島之内 ……

島之内、掃除を始める。

島之内 うそうそ。

中島 帰るよ。

島之内 うん。

中島、掃除を始める。

中島 ゆうちゃん、待ってるし。

島之内 うん。

中島 終電に間に合わない困るし。

島之内 うん。

中島　　また電話するよ。
島之内　　うん。
中島　　……うん。
島之内　　……うん。
中島　　……うん。
島之内　　……うん。
中島　　……うん。
島之内　　……うん。
島之内　　……うん。

照明は溶暗する。そして切り替わる。

八場　モノローグ

基の部屋のテーブルの上に基が座っている。マグカップを見て話す。

基　父とハイキングの帰り道、竹やぶの中を通った。うつそうとした竹やぶで、手が緑色に見えた。父のあの緑色。緑色の父は心なしか心細げに見えた。

「さみしい」

そんな感情を父に発見したのは初めてで、幼い私は戸惑った。思い出すと、母はあの日どうして一緒にいなかったのだろう。父はどうして私だけ連れて出掛けたのだろう。水のせせらぎは聞こえていた。竹やぶの向こうで見えないけれど川は流れているのだ。父は私に合わせてゆっくりゆっくり歩いてくれた。

九場　川（戸外）

基は小さな水の流れをしゃがんで見下ろしている。そこへ帰り道の中島、通りかかる。

中島 あれ。
基 おう。
中島 たいま。
基 おかえり。
中島 ごめんごめん。終電になっちゃった。
基 いいよ。遅くなるって聞いてたし。
中島 うち、入ろうよ。
基 うん。
中島 風邪ひくぞ。薄着で。
基 ひく時にはひく。
中島 風邪ひいて、また泣くんだぞ。
基 なにまたって。
中島 泣くじゃないか。いつもゆうちゃん。
基 泣かんよ。失礼な。
中島 泣く泣く。この前もそうだったじゃんか。
基 この前っていつよ。
中島 誕生日に。風邪ひいて。寝込んで。それでもケーキ食べたいってただこねて。俺買に行かされて。食べ。おなか壊して。
基 泣いた？
中島 泣いたじゃん。真っ赤な顔してはな垂らして涙流してクソたらして。
基 涙とクソはたらしません。
中島 ゲロ吐いて文句たらして。
基 ほとんど脱水症状だったんだもん、文句もたらずさ。
中島 献身的に看病したのに。
基 献身的っていうかなあ。隣でぐうぐう寝てるのを。
中島 看病疲れ、っていうんだよ。
基 疲れるほど長い時間寝込んでないよ私。
中島 疲れるんだよゆうちゃん寝込むと。注文多いから。ポテトチップス買ってこいとかマンガ買ってこいと
かビデオが見たいとかチョコレートはミルクがいいのとか。
基 退屈だもん寝てばかりだと。
中島 不まじめな患者なのに治っちゃうのは早いんだよな。不思議に。
基 今度ひいたら絶対なかなか治してやらないんだ。
中島 え。
基 看病する人が必要なんです、ってただこねてやる。
中島 ……え。
基 ポテトチップスの好みが変わる人がいなくなったら私死んでしまうんですから、って言ってやる。
中島 ポテトチップスでは死なないよ。
基 今連れてったら一人じゃなくて二人も死んじゃうんですよ、って。
中島 大丈夫。ポテトチップスでは死なないから。
基 死ぬよ。きつと。ポテトチップスは人を殺せる。チョコレートはもつと殺せるけど。
中島 ……うち、入ろう。風邪ひくよ。
基 うん。
中島 寝ようよ。明日早いんだろ。
基 明日なんか来ない。
中島 え。
基 朝なんか来ない。もう起きなくてもいいんだから。
中島 そんなわけにはいかないよ。朝は来るんだから。

基 大丈夫だよ。朝が来ない国だってあるんだから。
中島 どこに。
基 北極の近く。南極の近くも。夏になったらずうっと昼間で、夜がなくて、だから朝なんてないんだよ。
中島 そんなことないよ。そういう国にも朝は来るんだよ。
基 うそ。だってずうっと白い昼間なのに。
中島 ずっと白くたって、そういう国の人は今、これが朝だ、っていつぶりに決めて暮らしてるんだよ。
基 わかんないじゃん。そんなの。ずうっと白かったら。
中島 時計見て決めてるんだよ。だから。ずうっと白くても、今は夜だから寝るんだよ、とか、今は朝だから起きるんだよ、とか。
基 そんなの不自然だ。
中島 不自然でも、人間は決めて暮らしてるんだよ。どんなとこに行っても。
基 そんなのおかしい。
中島 おかしくても決めなくちゃ生きていけないんだよきつと人間は。
基 おかしいよそんなの。
中島 やめるか、人間。
基 朝なんてあるからがっかりするのに。
中島 がっかりしないのさ、きつと普通の人間は。
基 私だって普通の人間だ。
中島 ……行こう。
基 お魚、いない。
中島 え？
基 いないね、お魚。
中島 いるわけないじゃん、こんな溝に。
基 水は流れてるのに。お魚いてもいいのに。
中島 いないさ。こんな溝に。
基 水はちゃんとあるよ。
中島 水はちゃんとあってもさ。こついうところじゃ魚は住めないんだよ。
基 どうして。
中島 さあ。狭いからかな。
基 狭くても水はどっかにつながってるんだよ。ちやんとどっかから来て、どっかに行ったりして、行ったり来たりしてたら住めるじゃん。狭いことなんかないじゃん。
中島 どこかでせき止められたりしてるだろうし、時々ゴミを溜める網みたいなのはつてあったりして、水は流れても魚は通れなかつたりするし。
基 でもすり抜けてくやつがいるかもしれない。
中島 いるかもしれないけど。
基 そういやつがここを通るかもしれない。
中島 通るかもしれないけど。
基 きつと通るよ。
中島 うん……
基 一匹だけ見たら、行く。
中島 いないって。
基 一緒に見ようよ。
中島 いないって。
基 見えるまでここにいるから。
中島 そう？
基 うん。そうするから。
中島 ……

間。水の音がする。

基 私、中島くんのお嫁さんだよね。

中島 え？

基 お嫁さんだよね。

中島 うん。

基 私がおばあちゃんになって、別の人のお嫁さんで死ぬ時に、

中島 うん。

基 あのおばあちゃんは昔、若い頃、中島っていう人のお嫁さんだったんだよ、って誰か言ってくるかな。

中島 誰かって誰。

基 おかあさん。

中島 お母さん死んでるだろう。ゆうちゃんがおばあちゃんだったら。

基 長生きするかもしれないじゃない。

中島 ゆうちゃんいくつで死ぬんだよ。

基 八十五。

中島 お母さんその時いくつになる？

基 百八才。

中島 死んでるだろう。

基 生きてるかもしれないよ。長生きしそつだもん。あの人は。

中島 百八才じゃ記録になるよ。きつと日本記録。

基 日本記録は無理だよ。きつと。

中島 どうして。いないよそんな年寄りはないかな。

基 その頃には寿命だつてどんどん伸びてるんだから。平均寿命百六才くらいになつて。

中島 なつてるかな。

基 女の人はつかり長生きするんだよきつと。男の人の寿命は伸びないのに、女はつかり。長生きしても楽し

いことなんかきつとないのに。

中島 そんなことないさ。楽しいよ。

基 楽しいかな……

中島 楽しいに決まつてる…

基 あ。

中島 え。

基 いたよ。

中島 なに。

基 今、いた。

中島 魚？

基 通つた。

中島 うそだよ。

基 ほんとだつて。

中島 うそだよ。

基 ……いるんだあ……

中島 ……ほんと？（溝をのぞき込む）

基 私、行かないでほしい。

中島 うん。

基 行かないでほしいんだよ。中島くんに。

中島 うん。……あ。

基 ……ね？

水の音、大きく響く。

第十場 基の部屋

島之内が大きなかばんから食料を出して、小さなかばんに小分けに入れ直している。貯金通帳に、ハンコなど確かめたり、そういう作業を進めている。
そこへ基、中島が戻ってくる。

中島 あれ。

基 こんばんは。

島之内 こんばんは。

中島 なに。

基 来てたんだ。

島之内 うん。

中島 なに。なに。忘れ物？なんか俺、忘れた？

島之内 私、決めた。

基 え。

中島 なにを。

島之内 逃げよう。

基 え？

中島 なに。

島之内 逃げるの。

中島 だれが。

島之内 中島くんが。

中島 俺？

基 逃げるって。

島之内 逃げるんだよ。

基 どうして。

島之内 兵隊行くの、ばかばかしいじゃん。

基 ええ？

島之内 だってそうじゃん。そもそも、死ななきゃいけないなんておかしいじゃん。悪いことしてないのに。

基 逃げるってどこへ。

島之内 どこか。山の中。

基 逃げられるの。

島之内 そりゃ難しいとは思っけど。

中島 難しいさそりゃ。警察だって必死になって探す。

基 そうなの。

島之内 大丈夫だよ。隠れてたら見つからないよ。前の戦争の時、三十年くらいも山の中に隠れてた兵隊さんがいたくらいなんだから。

基 そんな人いたの。

島之内 その人は戦争が終わったの知らなくてね。見つかったら捕虜になる、捕虜になるくらいだったら自殺しなくちゃ、と思って必死で隠れてたんだよ。自分で秘密の畑つくって。

基 やった。

中島 三十年も隠れてられるか。

島之内 三十年も隠れなくていいよ。そのうち戦争終わるから。やまない雨はないでしょ。終わらない戦争はないじゃん。戦争終わったら徴兵の制度もなくなるし。三十年もかからないよ。長くても五十六年。それだけ我慢したら。

中島 実家に迷惑かかるんだよ。

基 そうなの。

中島 そりやそうさ。息子が徴兵から逃げた家なんてどんなめにあうかわからんよ。少なくとも息子から連絡が行くはずだ、とかいつて電話盗聴されて、刑事にしょっちゅう張り込まれて。兄貴の子供、進学できないよ。きつと手、回されて。

島之内 わかっている。

中島 わかっているって。

島之内 考えたよ。

中島 考えたらわかるだろう。

島之内 わかったんだよ。だから。だからってじゃあ中島くんのお父さんやお母さんやお兄さんが、中島くんに死んでほしいと思うと思う？私がお父さんだったら思わない。自分がどんな目に合っても、死なれるよりましだと思う。

基 うん。そうだよね。

島之内 それに終わらない戦争はないんだよ。いつかそんな世の中でもなくなるよ。

中島 何十年かかかるかもしれない。

島之内 何十年かかかって。

中島 その何十年間かは家族中が苦しむんだよ。

島之内 苦しんだって、死なれるよりましだって思ってくれる。

基 そうだよね。

島之内 それが少しでも早く来るように、私たちの運動だつて少しは力になるはずだし。

中島 無茶苦茶言うなよ。

島之内 中島君が死ぬほうがよっぽど無茶苦茶じゃない！

基 そうだよね。

基も島之内の作業を手伝い始める。

中島 ちよつと待つて。待つて。

島之内 待たない。

中島 うまく逃げられたとしても、会えないんだよ。

基 え。

中島 それは変わらないんだよ。

基 どうして。

中島 当然じゃないか。足がつくじゃないか。当然おまえらも刑事に尾行されるんだよ。毎日。

基 あそうか。

中島 俺の隠れ家に訪ねてきてみる、尾行してきた刑事に俺、すぐ捕まっちゃう。それと、助けたおまえらも。

刑務所だよ。そうなると、重罪だよ。今は、何十年も会えなくなるよ。かえつてそうなるんだよ。

島之内 わかっている。

中島 わかっているって。

島之内 だから私たちも逃げるんじゃない。「一緒に」

基 ええ？

島之内 どうせだつたら三人一緒の方が生活も便利じゃん。いろいろ役割分担ができて

基 そうなの？

島之内 そりゃそうだよ。病氣したらどうなる？一人だと寝込んでやばその間食べ物も飲み物も手に入れないんだよ。ほんと、ただ「腹減った」「のどかわいた」って泣くだけなんだよ。病氣もどんどん重くなっちゃうし。でも三人いたら誰かが病氣になったとき、一人が看病、一人が食料集め。

基 そうだよね。

島之内 戦争終わるまでずっと一緒にいられるじゃん。それ最高でしょ？

基 うん。最高。

島之内 わかったら着替えて。

基 着替えるの？

島之内 山の中で動きやすい服に。でもジャージとかはだめだよ。電車乗る時に不自然だから。

基 あそうか。

島之内 中島くんも着替えて。

中島 あのさあ。

島之内 さっさとして。夜中のうちに準備済ませて、人目につかないうちにここを出て、朝一番の電車で行けるよ。ここまで行くんだから。

中島 途中で見つかって失敗したら皆捕まるんだよ。

島之内 わかっているって。

中島 捕まったら刑務所だよ。今重罪なんだよ。戦争忌避罪っていうのは重いんだよ。何十年も出てこれないんだよ。

島之内 わかっているって。

中島 わかっているって。

島之内 わかっているって。失敗してもいいよ。なにもしないで死なれてしまうよりなんとかしようとして失敗して刑務所入っちゃうほうがきつとまだましなんだよ。私考えたんだから。

中島 ちがう。そんなことじゃない。わかっているって。

島之内 お願だからさっさとして。

中島 ちよつと待って。待って。待って。

島之内 お願い、決めて。心決めて。そうして。そうして。

中島 ちよつと待って。待って！

三人の手は止まる。

中島 あの、ほんとに、いいんだよ。俺。

島之内 ……なに？

中島 いいんだよ。ほんとに、あの、

基 ……うん。

中島 座って。

島之内 なに。

中島 座って、聞いてくれる。

島之内 なに。

中島 じゃ、座らなくていい。

基 座る。

中島　なんか、俺、ほっとするんだよ。

島之内　え？

基　なにが？

中島　実のところ、ほっとする。

基　なに。

島之内　なんのことよ。

中島　死ぬんだなあ、てこと。いや……死ぬるんだ、って。

島之内　ええ？

中島　申し訳ないけど、安心する。そういうのに近い感じがあつて。

基　なに？

中島　いや、ほんとに正直で、申し訳ないんだけど。戦場で死ぬんだったらどうせだつたらひと息がいいなあ、

とか、そういうこと考えて。

基　どういふこと？

中島　牛がいて。

基　牛？

中島　ずっと、ここんところに。

島之内　おなか？

中島　というか、そう。牛。

基　乳牛？

中島　いや、肉牛だと思う。大きいやつ。小山かと思うくらい。

島之内　なに？

中島　小さい頃、住んでいたのが川のそばで。結構大きな川で。堤防が広くて。そこに牛がいた。緑の草っぱら

にボツ、あれ、二頭だけかな？と思つたら関係なさそうなところにボツ、つてもう二頭。大きなやつなんだ

よ。こわくてね。風格があつて。

島之内　牛に？

中島　いや見ないとわからないと思うよ。きすごい食べるんだらうね。広い面積を独り占めしてる。だいた

いの生き物はあれより小さいし、あの牛は、世界を見下げて暮らしてる。

島之内　牛が？世界を？

中島　絶対そうだつて。見たらそうだつて思うつて。自分が王様のつもりでいると思う。人間は奴隷みたいに

食べ物ささげ持つてくるし。でもぎ。時々、連れていかれるんだよ。

島之内　どこへ。

中島　処理場へ。

島之内　処理場？

中島　食肉処理場。売りに出されるわけさ。肉牛だから。殺されて、食われるために。うん。

島之内　それで？

中島　その牛がずっとここにいます。

基　おなか？

中島　めつたに鳴かないんだけど、鳴くんだよたまに。低くて、太い、すごい声で。そうだよ。すごい声なん

だよ。

基　うん。

中島　なにかに夢中になつて、むきになつて、そう例えば、なんでもいいから競争になつたりして、それは自

分にとつて誇りをかけたようなことで、それで、勝つたりするだろ。どう？

基　うれしい。

中島　そう。無茶苦茶うれしい。そんな時に、鳴くんだよ。

島之内　なにが？

中島　牛。牛だよ。

島之内　どこで？

中島 ここぞ。おなかの中で。

基 うん。

中島 どうせ死ぬんだぞ、って鳴く。

基 ……

中島 どうにも困る。ほんとに、困る。牛が鳴くと、なんて言うのかなんにもなくなるんだよ。熱中するものが。熱中するものがない、っていつかは、もうほんとどこかどこかにいる意味がない、っていうようなこと。実は、何もどきどきしないし、はらはらしないし。朝遅刻しそうだ、っていうのがはらはらしないし、遅刻しないで間に合った、っていうのがどきどきしない。島之内という時、それがひどくなつて。

島之内 うん。

中島 困って、それで。

島之内 出たの？

中島 いやよくわからんと思うけど。ほんとのこと言うと。それでやり直さなきゃ俺はだめになる、と思つてたらゆうちゃんと出会って。一緒に住んで。大丈夫で。しばらくなんでもなくて。よかったのに。ここひと月でまた鳴きだして。

基 そっだったの。

中島 そうなんだよ。ごめん。だからなんだか助かったような気分でしたよ。召集令状もらった時。実のこころ。

島之内 なにそれ。自殺みたいなものじゃない。実際。

中島 だからと言つて否定できるか？島之内だつてそうだよ。たった一人でここに生きていて、それはたったのまだ三十年足らずで、でもなにもなくてもそれがたかだか七十年か八十年に延びるくらいのもんで、何億つて人間がここにいて、牛や馬まで合わせると何兆つてのがここにうじゃうじゃいて、その中のほんのひとつで、そこにいる島之内、っていうのも、愛しあったり怒ったりすねたりしたところでそんなもんで、そういうことなんだ、っていろいろを普段なんとも忘れて過こしてただけなんだよ。牛が鳴くようになってみる。牛にいったん鳴きだされてみる。いないか？おまえには、牛が、二頭も。

島之内 いない。そんなのいない。

中島 申し訳ないけど、一人で死んでいくよ。そうする。

島之内 ……

島之内、作業を再開する。

中島 あれ。あの。

島之内 それでも私、

中島 うん。

島之内 生きててほしいんだよ？

中島 ……

照明が切り替わる。

第十一場 モノローグ

基 一人に照明が当たる。

基 緑色の父の顔。あの時、父は何を見つめていたんだろう。私と父の歩く道の左右には深い竹やぶ。竹やぶは地面の下に水をジクジクと蓄えていた。地面の下に網の目のように根を張り巡らせ、水を捕まえて、そこから少しずつか水をこぼれださせない。その水を集めてできた川の中に、魚が見えた。小さな魚。魚も緑色で、その水の中を、水を切るように、水のことなんて知らないふうに、切り裂くように走っていった。

第十二場 基の部屋

いつしか島之内の作業の手も止まっている。

中島 お茶、飲もうよ。お茶。

基 ……

中島 皆、座ってさあ。おしゃべりしようよ。そうしようよ。

皆、動かない。

中島、台所の方へ去る。

島之内、その場に座り込む。

基 汽車の音が聞こえるんだよ。

島之内 汽車？

基 うん。時々。風に乗って。

島之内 汽車じゃないでしょ。電車でしょ。

基 うううん。違う。汽車の音だよ。ガツシユガツシユ。つてリズムがあつて。で、時々ボォー、つて汽笛まで鳴る。

島之内 ほんと？

基 ほんと。あそこだと思つて。あるでしょ。蒸気機関車保存してある車両区みたいなところ。

島之内 観光客向けの？

基 そうそう。時々走らせてるじゃない。観光客乗せて。

島之内 でもそれ随分遠いよ。

基 だから風に乗ったときにしか聞こえないんだと思つけど。

島之内 へえ。ほんと。

基 ここが静かにしているとね、聞こえるんだよ。ほんとに時々。期待しないように待たないようにしていると。

島之内 待たないようにつて待ってるんじゃないの結局。

基 そこがコツじゃん。物探すのと同じ。

島之内 どういうこと。

基 なかなか出てこない時はさ、もうあきらめたふりして探さないと出てくるもんじゃん。

島之内 だれにふりするの。

基 ー、自分。自分にする。

島之内 出てくる？

基 出てくるよ。音だつて聞こえるもん。

島之内 コツだねえ。

基 伝授したげるよ。聞きにおいでよ。時々。
島之内 うん。
基 今、教えてあげようか。
島之内 うん。
基 こうするでしょ。(手を目の前に組む)
島之内 はい。
基 願って下さい。強く。
島之内 なにを？
基 「聞こえさせて下さい」
島之内 うん。
基 はい。
島之内 ……だれに？
基 神様。
島之内 神様？
基 音の神様。
島之内 そんなのいるの？
基 あ、だめだよ。疑っちゃ。かなりその気にならないと。
島之内 はい。了解しました。
基 どうぞ。
島之内 ……
基 それじゃ今度は完全に力を抜きます。(手をほどく)
島之内 力？
基 心の力だよ。身体じゃないよ。
島之内 心の、つてなに。
基 つまり全然願わないようにします。何も願わない。
島之内 どうやって？
基 他のこと考える。
島之内 他のこと。
基 なんか、楽しいこと。
島之内 ないもんなあ、楽しいこと。
基 あるさ、なんか。人間である限り。
島之内 うーん。
基 どうぞ。
島之内 ……
基 むつかしいでしょ。
島之内 むつかしい。
基 でも思い出そうと一生懸命になつてますね、あなたは。
島之内 うまくいきませんけど。
基 それでいいんです。それが力の抜けた状態です。
島之内 なんだそれ。だましたな。
基 全然願ってなかつたでしょ。
島之内 それどころじゃないし。
基 で、それは力を抜き過ぎた状態なわけです。これからが仕上げです。めぎすのは、願わないで待つと
いうものです。待たないで、かつ待つ。
島之内 うんうん。
基 さあ、なにか楽しいこと、考えて下さい。
島之内 うん。

基 で手を組んで。軽く……

島之内 はい。

基 これは、組む、だけでいいんです。まるで願ってるポーズみたいですけど、実は願ってないんです。そう見せかけるだけです。

島之内 だれに。

基 うーん。自分に。楽しいこと考えるのに夢中になりすぎると手はおろそかになりますから、気をつけて。

島之内 はい。

基 ちゃんと手を組もうとしちやうとそこから実際願うことが始まってしまいますから、そういうふうにもならないように気をつけて。

島之内 微妙だね。

基 そう。微妙なんです。いいかげんに、手は組んで下さい。でもあくまでも手を組むのをやめてはいけない、っていう程度です。

島之内 ……

基 ……

島之内 聞こえないよ。

基 それでいいんです。

島之内 聞こえないのにな？

基 結局は風まかせなんですから。

島之内 なによそれ。

基 って本気でいいかげんになるくらいでないと聞こえてきません。

島之内 そうなんだ。

基 そうなんです。

島之内 ……

基 ……

中島 入場。白い手袋を持つてくる。白い蝶ネクタイと。手袋の方を基に渡す。

中島 はい、つけて。

基 なにこれ。

中島 いいからつけて。

中島 蝶ネクタイを首に巻こうとする。

中島 ちょっとこれ、どうするの。

島之内 なに。なにしたいの。

中島 つけるんでしょ。首に。

島之内 うん。(手伝ってやる)

中島 ゆうちゃんは手袋はめる。

基 はいはい。

基 手袋をつける。

中島 さて。

基 なに。

中島 今から結婚式を執り行います。

基 え？

中島 基祐さんと中島達男さんの晴れの挙式です。皆さん拍手でお迎え下さい。(自分で拍手する)

基 なに。ちよつとなに。

中島 結婚するんだろ。

基 え。うん。

中島 だったらしようよ。

基 どういうこと？

中島 島之内に立会人になつてもらつて。

島之内 私？

基 うその結婚式じゃいやだ。

中島 うそじゃないさ。ほんとの結婚式だよ。誓えばいいんだから。要するに。

基 誓うの？

中島 神様に。

島之内 どういうこと？

中島 いやもちろんいないんだよ。神様なんか。唯物論的歴史観によるとね。俺もどつちかいうとその派閥た

からそう考えるよ。じゃ今このへんにぼんやりある、なんていうかこの瞬間の、間違ひなくここにあつた空

気に誓おうよ。そりゃきつと神様やら婚姻届やらよりははるかに信用できると思つし。

島之内 なに言つてるの。

中島 いやそれすらも完全に信頼できるわけじゃないよ？この空気すら、そこにある、と考へたらそこにある

という程度のもので、ない、としたらそりゃないんだらうから。……そういうことじゃない？あれ？マルク

スはそんなふうなことは言わないのか？哲学的には。

島之内 言わないと思つ。

中島 いや少なくとも世間でやつてるのと同じくらいのことだよ。これで十分。な？

基 私は、あのね、

中島 籍入れるのはいやなんだよ。やつぱり。なんだか。屈辱的で。それはさすがに堪忍してほしいんだよ。

でも結婚はしてもいい。空気に誓うようなほんとのやつなら。で、世界中にほんとの結婚をしました。つて

これから言つていいんだと思つよ。堂々と。だつてするんだから。

島之内 だよね。

中島 ほら。妥協できる線なんだよ。今日からゆうちゃんはお嫁さんだよ。俺だんな。そうなるんだよ。正式

に。

島之内 よしよし。

基 手袋を片方外して、島之内に渡す。

基 はい。

島之内 なに。

基 二つしかないから。

島之内 なによ。

基 ちゃんと四つあれば両手にはめれるんだけど。

島之内 え？

基 つけて。

島之内 ……

中島 あのさ、

基 ほんとの結婚式なんですよ？

中島 そうだよ。

基 三人が結婚すればいいじゃん。それだつたら。

中島 ええ？

基 ほんとのところ、そんな感じのことなんだから。

島之内 ほんとのところ、つて。

基 一対一で結ばれなくちゃいけない、っていう決まりもほんとはどうなんだか、っ感じなんだし。
中島 そりゃそっただけだ。
基 私、独占するのちよつと我慢するから。あんまりわがままだと思っし。島之内さんかわいそっだもん。
中島 本気でやるんだよ。
基 本気なんだって。愛しあってる人たちが結ばれるのはなんら不自然なことではない。
中島 ……うん。
基 ……島之内さんが加わらないと、かえってうそみたいだと思っよ。
中島 はい。じゃあ。
基 つけてください。

島之内、手袋をつける。

中島 なんかちよつと無理を感じるけど。

基 多少の無理は儀式にはつきものです。

中島 立会人いなくなっちゃって。

基 そっちの方の空気さんたちに立会人になってもらうということにして。誓うのはこっちの方の空気さんたちだとして。

中島 擬人化するのはよくないよゆうちゃん。われわれは限りなく真実に近い結婚式を執り行うのであって。

基 あごめんさい。

中島 執り行います。

基 はい。

島之内 はい。

基 どうするの。

中島 手を組んで下さい。胸の前で。

島之内 はい。

中島 儀式です！

島之内 はい。

基 はい。

中島 声をそろえます。

基 はい。

中島 われわれはあ、……

基 島之内 われわれはあ、……

中島 結婚するぞ！

基 島之内 結婚するぞ！

中島 ……

基 島之内 ……

中島 したぞ！

島之内 なにそれ。

基 ちよつと。

中島 簡潔に行こうよ。儀式なんだから。

基 まあいいか。

中島 いきますよ。

島之内 はい。

中島 ……したぞ！

基 島之内 したぞ！

中島 黙とう！

島之内 どうして黙とう？

中島 いいじゃんか。儀式なんだから。緊張感出そうよ。

基 まいいか。

中島 黙とう！一分間！

基 島之内 ……

中島 ……

基 来たでしょ。

島之内 なに。

基 待たないようにして、待つてたら。

中島 しっ！

島之内 ……きたねえ。

中島 しっ！

島之内 ……

基 ……

島之内 中島くん、聞いて。

中島 しっ！黙とう中。

島之内 イタリア映画見てね、この前。古いやつ。

中島 ……しっ！

島之内 難しげな前衛映画でね、ストーリーなんかほとんどないんだけど。四才くらいの女の子が主人公で。

すごくかわいくて。最後、化け物の幻を見て病気になるっちゃうような悲しいお話なんだけど。

中島 黙とう中です……

島之内 お母さんが女の子の髪を梳いてあげる、っていうだけの場面があるんだよ。鏡の前で。お母さんは小

さい子の相手が基本的には面倒そうであるさそうなたったおばさんなんだけど。

中島 黙とう中です……

島之内 かせつ毛、ネコつ毛でくるくるの女の子の髪の毛がやるときれいに整ったな、っていう頃になって突

然お母さん、その女の子を抱きしめるのよ。意味もなく。せつかく整えた髪の毛まくしゃくしゃになっち

ゃって、でも女の子も乱暴に抱きしめられてうれしそうで、なんだか笑うのよ。お母さんも笑うのよ。セリ

フなくてね。

中島 黙とう中です……

島之内 でまた髪の毛から梳き直し、てそれだけの場面なんだけど。大げさじゃなくてね、私。

中島 もおくとおおちゅう……

島之内 この手袋、抱きしめると思うよ。中島くんいなくなったあと。抱きしめる日が来ると思うよ。

中島 もくとちゅう……

島之内 牛は鳴かないと思うよ。その日は。

せせらぎの音、高まる。汽車の音、電車の音、さまざま街の音が重なって高まって。
照明が切り替わる。

十二場 電車の車内

島之内と基が並んで座っている。

島之内 ゆっくりだねえ。意外と。

基 うん。職場変わった。

島之内 前からこの電車？

基 ううん。今日はいつもより一本早い。

島之内 へえ。ほんとゆっくりなんだ。

基(モノログ) 緑色の魚は川底にいる。水の流れなど知らないふうをしてびゅんびゅん飛ばしていく。びゅんびゅん飛ばしてゆく緑の魚は自分の背びれが緑色しているようすら知らないでいるだろう。

ゆんびゅん飛ばしてゆく緑の魚は自分の背びれが緑色しているようすら知らないでいるだろう。

島之内 電車、すいてるからいいよね。

基 そういうの気にして選んだもん。

島之内 あったまいいなあ。私は偶然で助かった、っていう感じなのに。

基 断固譲らなかつた。出勤時間。今働き手減っちゃって結構言い分通るんだ…

島之内 あれ。

基 なに。

島之内 雨降ってきたね。

基 ほんと？

島之内 ほら。窓ガラス。

基 ……ほんとだ…

島之内 雨降っても、傘もささせてもらえないで歩くんだらうね。水かさの増えた川を進軍させられたりする

んだよ。

基 ……(モノログ) 水が緑色になるまでびゅんびゅんいこう。びゅんびゅんいこう。びゅんびゅんいこう。

びゅんびゅんいこう。……

島之内 風邪なんて意外とひかないのかもしれないよ、それくらいの根性だと。

基 びゅんびゅんいこうよ。

島之内 ……え？

電車の音が高まる。舞台の緑色が全体に少し濃くなつたような気がする。暗転。おしまい。

◆上演記録

劇団八時半公演

一九九八年五月二十二日から二十四日まで

アトリエ劇研にて

基 ……中村美保

島之内 ……山岡徳貴子

中島 ……鈴江俊郎

作・演出 ……鈴江俊郎

舞台監督 ……山岡徳貴子

照明 ……吉本有輝子

舞台美術 ……西田聖

音響 ……中村美保 新村直

制作 ……大屋さよ